

編んだ金属線を叩いて 生まれるかたち

真鍮線・金メッキ・鍛金
φ500×h150mm
φ500×h180mm

田中 久美子
Tanaka Kumiko
デザイン工芸コース

金属を加工する方法はいろいろありますが、その中でも私は金属を叩いて加工する鍛金という技術に興味を持っています。ただ”叩く”という単純な行為のなかで生まれるかたちや金属の変化はその行為に反し複雑で、その変化を効率よく生かしたデザインと加工方法はないかと思い、これまで制作を行ってきました。

そこで今回は、金属線を編み、その交点を叩くことによって金属が変形・硬化し、溶接などの加工を行うことなく形が固定されること、さらにその叩いた交点の形自体がデザインとして魅力を持っていることに着目し、その効果を生かせる作品としてテーブルを制作しました。

熱処理を行った後の真鍮線は、手の力で容易に曲げられるほど柔らかいものです。しかし、その線を編んで叩くことで硬化・固定され、複雑で繊細なデザインかつ強度をもった広い平面が作られます。そしてテーブルの天板から線がそのまま側面へ繋がりを、編んだ線を叩いただけに必要な構造と強度を保っています。

